いわて復興だより

がんばろう！岩手　つながろう！岩手

三陸復興

第 74 号

平成 26 年 11 月 1 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

朝晩の冷え込みに秋から冬への移り変わりを感じ、冬支度に追われる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の明るい今を紹介します。

震災後初、地場産業振興のための大物産展 開催　大船渡市

10 月 25 日（土）と 26 日（日）の両日、東日本大震災津波の影響で開催が見合わされてきた「大船渡市産業まつり」が、4 年ぶりに同市盛（さかり）町の市民体育館で開催されました。

このイベントは、被災した生産者等の事業再開が進むとともに、会場である市民体育館の復旧工事が完了したことから復活。同市の海産物や農産物、伝統工芸品などを一堂に集め、地場産業を内外に広くアピールする目的で行われました。

会場では、地元の海産物や加工品、新鮮な野菜などを販売するおよそ 60 のブースが並び、ふるさと味自慢コーナーや同市と交流のある都市の物産展ブースも設けられ、多くの来場者で賑わいました。

今回のイベントでは、震災後に開発された新商品や新たに起業した事業者の商品等も紹介。事業者たちは新しい販路開拓に期待を寄せていました。

また、10 月 25 日（土）、同時に開催された「三陸大船渡さんままつり」では、炭火で焼いたおよそ 2,000 匹のサンマが無料で振る舞われ、来場者たちは脂が乗った秋の味覚を楽しみました。

多くの来場者で賑わう会場の様子

無料で振る舞われたサンマに行列する来場者

漁師のなりわいの場「机浜番屋群」12 月下旬に完成予定　田野畑村

三陸海岸北部、断崖の自然景勝地「北山崎」や「鵜の巣断崖」を有する田野畑村にある「机浜（つくえはま）番屋群」は、貴重な漁村の原風景をとどめる、「番屋」と呼ばれる漁師の作業小屋や倉庫など大小 25 棟で構成されていました。

平成 18 年には水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選ばれ、地元漁師の作業場として漁業活動の一翼を担うのはもとより、漁業や漁村文化を体験する「番屋エコツーリズム」の拠点としても多くの観光客を受け入れていました。

その番屋群は、東日本大震災津波ですべてが流出。

同村は平成 25 年 10 月、国の復興交付金を利用し、番屋群の再建に向け着工し、平成 26 年 10 月 10 日 (金) に建物本体の建築工事が完了。現在は、12 月下旬の完成を目指して外構工事中です。

再建される番屋群は、食体験番屋、塩づくり番屋、海体験番屋、ふれあい番屋、学びの番屋などで構成され、地元料理や製塩などの体験ができる他、地元の漁業者が生業に利用する漁師番屋を設置します。

机浜番屋群の再生は、田野畑村の復興のシンボルとして、また、漁村文化の発信と体験観光の拠点として、今後の交流人口の増加が期待されます。

2006 年当時の番屋群（写真提供：田野畑村）

建築工事が完了した番屋群

建築工事が完了した番屋群の全景

特設 web サイトで動画を公開！ いわて復興人

「地元の底力」と国内外からのご支援という「つながり」の力で復興に取り組んでいます。
「未来の岩手を創りたい！」「復興の役に立ちたい！」ひたむきに、そして熱い思いで取り組む「いわて復興人」。復興の本番を迎える岩手の未来を創る方々を動画で発信します。

http://www.pref.iwate.jp/kouchoukouhou/028674.html

海の安全と復興を祈願「釜石まつり」が開催されました　釜石市

釜石市の尾崎神社と山神社の合同例大祭「釜石まつり」が、10月17日（金）から19日（日）の日程で開催されました。

10月18日（土）には、大漁旗をたなびかせた漁船が勇壮に釜石湾内を周回する「曳き船まつり」が行われ、港の周辺は大勢の人々が集まり活気にあふれました。

「曳き船まつり」は、海の安全と大漁を願う尾崎神社の伝統的なまつりで、漁船に乗せられた神輿（みこし）がご神体を迎えに海を渡ります。

震災の年はわずか2隻の漁船で行われた「曳き船まつり」でしたが、今年は12隻が参加。湾内を3周しながら、船上で伝統芸能の虎舞や神楽を披露すると、観客から大きな拍手と声援が送られました。

最終日には、両神社の神輿による合同渡御が市の中心部で行われ、帰省客や観光客、復興関係者など多くの人で賑わい、伝統的な地域の祭事が、復興に向けて歩み続ける住民を励ます一日となりました。

曳き船まつりで湾内を周回する漁船（写真提供：釜石市）

尾崎神社と山神社の合同祭の様子

市の中心部で行われた虎舞

未来のさんりくびと

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。
第28回目は、吉水 五穂さんを紹介します。

PROFILE

宮古市（旧田老町）出身
田老の小中学校、宮古の高校に通う。
卒業後、酪農に興味があり北海道上士幌町へ移住。
震災をきっかけに地元に戻りたい気持ちが強くなり2012年3月に戻る。一時岩泉の牧場を手伝った後、2012年5月より「グリーンピア三陸みやこ」に勤務、現在に至る。

観光面でも復興の兆し

「グリーンピア三陸みやこ」は東日本大震災津波での被害はなかったものの、震災直後は被災された方々のために隣接する体育館を開放。ホテルの厨房を使って食事を提供するなど支援を行ってきました。

「グリーンピア三陸みやこ」が営業を再開したのは2011年8月。2012年5月からフロント業務、レストランでの接客、宴会でのサービスなどを行う吉水さんは「以前は工事関係者の宿泊がメインでしたが、最近では観光のお客様の割合が多くなっています。」と観光面での復興の印象を語ります。

グリーンピア三陸みやこ
吉水 五穂
（よしみず いつほ）さん

吉水さんからのひと言：
"海の幸"を取りそろえて
お待ちしております!!

交通面の復旧と宿泊施設で観光を推進

三陸鉄道が全線で再開したのに合わせ「グリーンピア三陸みやこ」では、ホテルから田老駅までの送迎を始めています。

「私は接客の仕事ははじめてだったのですが、やりがいを感じています。時にはお叱りの言葉も頂きますが、お客様の笑顔を見るのが楽しみ。今後は三陸道路もできる予定ですので、三陸へのアクセスが便利になります。浄土ヶ浜やリアス海岸の景勝地、岩泉の龍泉洞など観光名所も多くありますので、是非宮古、三陸にお越し下さい。」と笑顔で語る吉水さん。

交通網の整備、宿泊施設の完備に加え、おもてなしの笑顔がこれからの復興の支えになることと期待されます。

岩手県の被害状況　平成26年9月30日現在

▶人的被害　死者（直接死）：4,672名　行方不明者：1,132名
▶建物被害（住家のみ、全半壊）　25,716棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等　いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます　平成26年9月30日現在

▶義援金受付状況　約181億8,213万円（89,968件）
▶寄付金受付状況　約195億7,366万円（6,965件）
▶いわての学び希望基金受付状況　約69億9,390万円（14,134件）

※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください!!　http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより　第74号　平成26年11月1日号　企画・発行：岩手県復興局復興推進課　☎019-629-6925
いわて復興だよりバックナンバーは　いわて復興だより　検索
編集・印刷：シナプス